

月報 2024年 2月29日 No.397

石城山岳会

2月号

四方通信

A stylized illustration of a mountain range in shades of green. A small black silhouette of a climber stands on the highest peak, holding a flag that says '石城山岳会'. Two white, fluffy clouds are positioned on either side of the mountain range.

石城山岳会事務局編集

2月登山教室「雄国山」

乗鞍岳 雪山訓練

2月登山教室「雄国山」

2024年2月18日(日)

教室生 3名

山岳会 21名



雪のヒヨコと、雄国沼の空

雪の残る雄国山までのスノーシューハイクへ参加してきました。私個人としては、10年以上履いていなかったスノーシューを身につけて雪に足がはまることなく歩ける感覚が、とても楽しかったです。行程は、予定通りの出発で順調に雄子沢駐車場まで到着することができました。暖冬の影響か道中、路面には雪がなく比較的、運転しやすかったです。

裏磐梯雄国せせらぎ探勝路入口からは、雪があり、スパイク、スノーシュー、スキーを各自が装着し、登山が始まりました。私は、地図を常に出してはいましたが、途中で現在地を確認する際にアプリの表示する現在地と私がいると思い込んでいた位置が違い、まだ地図を読むことに関して未熟だなと感じました。それと同時に、アプリの必要性の高さも実感しました。

登山口からの出発が、予定より10分ほど早かったことや休憩舎でのトイレ休憩がなかったこともあってか雄国山へコースタイムより1時間近く早い登頂ができ気持ちにもゆとりの持てる山行でした。また、夏場と違い起伏の少ない雪原の歩きやすさに驚きました。雄国沼休憩舎で昼食をとり、ツエルトを張る際の注意点を学びました。終始、澄んだ青空が、とても美しく、時おり目を奪われました。今回のスノーハイクを通して装備が不十分だったと感じましたので、装備を調べ来年も、このスノーハイクに参加したいと考えております。



【コースタイム】

裏磐梯雄国せせらぎ探勝路入口 07:35→雄国沼休憩舎→雄国山(10:00—10:30)→雄国沼休憩舎(ツエルト 昼食 11:00—12:40)→雄国せせらぎ 探勝路入口(14:15)



◆山域 雄国山(1,271m)

歩行距離 約 9.5km

標高差 約 500m

(文責：阿部)

乗鞍岳 雪山訓練

2024年2月23日～25日

高倉、種市、西田、比佐、須藤

(高倉、種市、西田、比佐はスキー。須藤はスノーシュー)

【1日目】小雪 距離 3 km 行動時間 2時間 50分

Mt.乗鞍スキーリゾートでリフトを2本乗り継ぎグレンデトップへ。ツアーコースと呼ばれる広い切通しの急登からスタート。2時間半ほどで位ヶ原山荘着。乾燥室も兼ねた玄関にはダルマストーブが焚かれていて小屋番の方が優しく迎えてくれた。一旦荷物を下ろし、遭難対策訓練。高倉さんが埋めたビーコンを別のビーコンでさがしたり、雪に埋まった西田さんをゾンデ棒で刺して感触を確かめたりした。夕食は鹿鍋、メのうどん付き。

【2日目】快晴 距離 6.6 km 行動時間 8時間

長年通う高倉さんも驚くほど良い天気。剣ヶ峰を目指す。山荘から急登の樹林帯を抜けて位ヶ原に着いて振り返ると、真っ白な穂高連峰がどんとそびえ、奥には槍の穂先も見える。どこから見ても槍は格好がいい。雪面がカリカリしてきたので、アイゼン装着。アイゼンワークを教わりながら登っていく。スキーやスノーシューはヒールリフターで登りやすいと思っていたが、アイゼンも足の使い方を知ると歩きやすく、状況によっての道具の使い分けは大事だなと感じた。剣ヶ峰からは大パノラマ。御嶽山の神々しさは言葉にならないほどで、是非登ってみたい。ピッケルを使った滑落停止訓練も行った。一旦下り、摩利支天に登り返して山荘まで颯爽と滑り下りるスキーチーム。真っ白で丸々とした雷鳥のつがいがいけて可愛かった。この日も位ヶ原山荘泊。豚キムチ鍋、メのうどん付き。



【3日目】雪 距離 5 km 行動時間 2時間 45分

山荘から位ヶ原まで地図読みしながらの登り。雪面にヒビが入っている箇所があり、少々危険を感じた。登り切ったら後は滑るだけのスキーチーム。須藤はひたすら歩く。途中シリセードしたのが楽しかった。帰りの温泉で二日ぶりに汗を流し、蕎麦を食べて帰途に就いた。

2日目の24日、剣ヶ峰登頂日の天気がとにかく良く、1日目と3日目は雪が降っていたものの、視界は良かった。全日気温も暖かく、風も穏やかで厳冬期の厳しさは感じられなかった。その分雪山の楽しさを存分に味わえ、雪山訓練もしっかり行うことが出来た素晴らしい山行だった。ガイドの高倉さんに感謝致します。

(文責：須藤)

